有効の採用による団体戦の勝敗について

(一社)山口県柔道協会　2025 年 5 月 9 日

有効の採用による団体戦の勝敗について、(公財)全日本柔道連盟(大会事業課)に確認した結果は下記のとおりです。

１　団体戦の個々の対戦の勝敗と内容

「一本」は、相手に「技あり」を取られていても、勝ちの内容は「一本勝ち」の内容となる。

「一本勝ち」以外の「優勢勝ち」では、「技あり」「有効」(有効数)を相殺し、勝ちの内容を決定する。

「有効」を何個取っても「一本勝ち」「技あり勝ち」「有効勝ち」「引き分け」のどれかに該当する。

(例) A：技あり・有効３　B：一本　→　B の「一本勝ち」
(例) A：技あり・有効４　B：技あり・有効２　→　Aの「有効勝ち」
　　(技あり・有効２が相殺)
(例) A：技あり・有効１　B：有効５　→　Aの「技あり勝ち」

２　団体戦の勝敗

勝ちの内容（「一本勝ち」「技あり勝ち」「有効勝ち」「引き分け」）により、団体戦の勝敗を決定する。

また、大会要項でどの様にチーム間の勝敗を決めるかを事前に取り決めておく必要がある。(「僅差勝ち」の取り扱いを含む等)

トーナメント、リーグ戦でも内容が異なるケースがあるので注意が必要。

＜参考＞

・団体試合はトーナメント戦で行い、勝敗の決定は次による。
A) 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
B) A)で同等の場合は、「一本勝ち」の多いチームを勝ちとする。ただし、「一本勝ち」と「反則勝ち」は同等とする。
C) B)で同等の場合は、「技あり勝ち」による勝ちの多いチームを勝ちとする。
D) C)で同等の場合は、「有効勝ち」による勝ちの多いチームを勝ちとする。
E) D)で同等の場合は、代表戦を行う。
F) D)の代表戦はその対戦に出場した選手の中から任意に選出して行う。
G) D) の代表戦における優勢勝ちの判定基準は「有効」または「僅差」以上とする。
ただし、本戦において勝敗が決しない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)を時間無制限で

行う。

H）G)の延長戦は、「有効」以上の得点があった時点、または、「指導」の差が出た時点で試合終了とする。

I）H）の延長戦（本戦においても）で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。

（例１）

	Ａチーム	Ｂチーム
先鋒	技あり・有効４	技あり・有効３
中堅	有効１	有効１
大将	技あり	一本勝ち

〇先鋒戦　双方について、技あり、有効があり、これらの相殺によりＡチームの先鋒の「有効勝ち」

〇中堅戦　相殺して「引き分け」

〇大将戦　Ｂチームの大将の「一本勝ち」

よって、Ｂチームの勝ち

（例２）

	Ａチーム	Ｂチーム
先鋒	有効４	有効３
中堅	有効１	有効１
大将	無	有効４

〇先鋒戦　双方の有効３が相殺され、Ａチームの先鋒の「有効勝ち」

〇中堅戦　双方が有効１で、「引き分け」

〇大将戦　Ｂチームの大将の「有効勝ち」

よって、「引き分け」